

「食の安全・安心」についてのアンケート結果

県民の皆さんが食の安全・安心に関して、日ごろ感じておられることをお聞きし、今後の県政（滋賀県食の安全・安心推進計画や滋賀県食品衛生監視指導計画など）に反映するため、アンケート調査を実施しました。

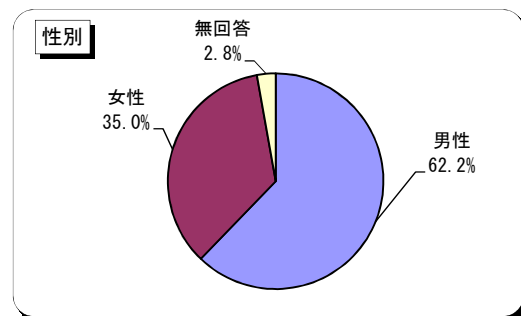
なお、このアンケートは、県民の皆様の意識の推移も参考とさせていただいておりますので、平成17年度より継続して実施しています。

- ★ 実施時期：令和元年6月
- ★ 対象者：県政モニター 399人
- ★ 回答数：360人（回収率：90.2%）
- ★ 担当課：健康医療福祉部生活衛生課食の安全推進室
（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

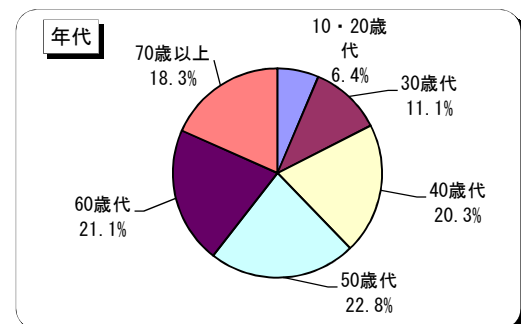
◆性別

項目	人数(人)	割合
男性	224	62.2%
女性	126	35.0%
無回答	10	2.8%
合計	360	100.0%



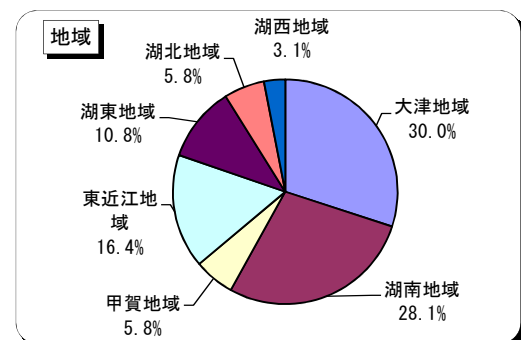
◆年代

項目	人数(人)	割合
10・20歳代	23	6.4%
30歳代	40	11.1%
40歳代	73	20.3%
50歳代	82	22.8%
60歳代	76	21.1%
70歳以上	66	18.3%
合計	360	100.0%



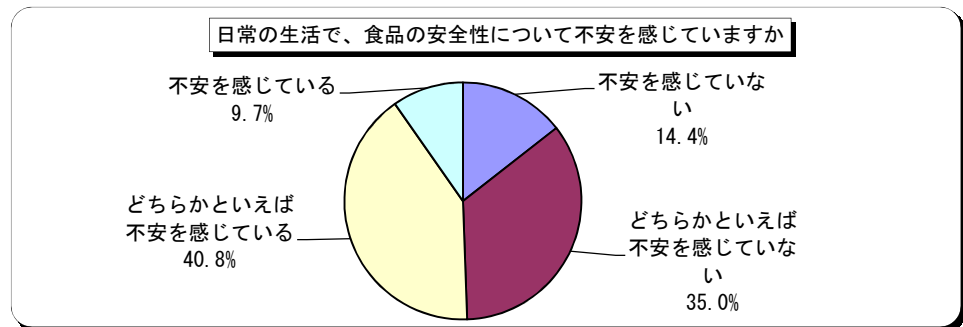
◆地域

項目	人数(人)	割合
大津地域	108	30.0%
湖南地域	101	28.1%
甲賀地域	21	5.8%
東近江地域	59	16.4%
湖東地域	39	10.8%
湖北地域	21	5.8%
湖西地域	11	3.1%
合計	360	100.0%



問1 日常生活で、食品の安全性について不安を感じていますか。(回答チェックは1つだけ。n=360)

項目	人数(人)	割合
不安を感じていない	52	14.4%
どちらかといえば不安を感じていない	126	35.0%
どちらかといえば不安を感じている	147	40.8%
不安を感じている	35	9.7%
合計	360	100.0%

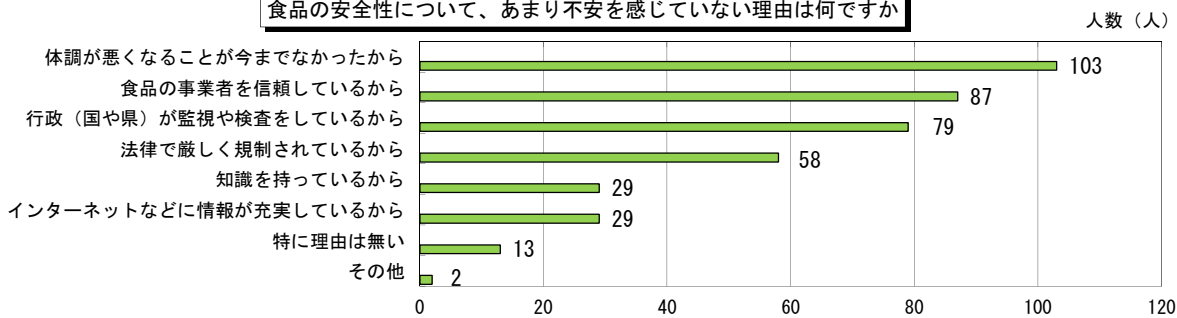


【問1で「1. 不安を感じていない」または「2. どちらかといえば不安を感じていない」と回答された方にお尋ねします。】

問2 食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも。n=178)

項目	人数(人)	割合
体調が悪くなることが今までなかったから	103	57.9%
食品の事業者を信頼しているから	87	48.9%
行政(国や県)が監視や検査をしているから	79	44.4%
法律で厳しく規制されているから	58	32.6%
知識を持っているから	29	16.3%
インターネットなどに情報が充実しているから	29	16.3%
特に理由は無い	13	7.3%
その他	2	1.1%

食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか

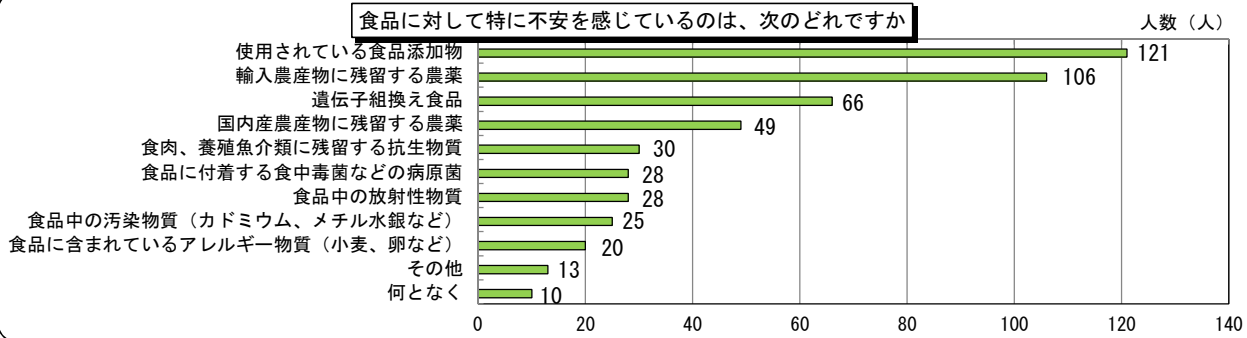


【問1で「3. どちらかといえば不安を感じている」または「4. 不安を感じている」と回答された方にお尋ねします。】

問3 食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか。(回答チェックは3つまで。n=182)

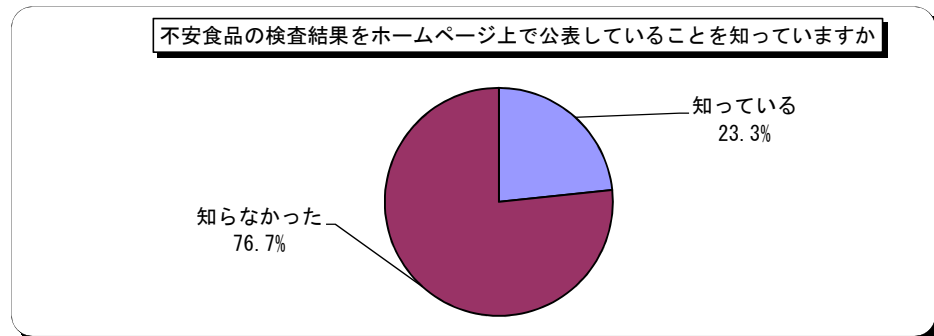
項目	人数(人)	割合
使用されている食品添加物	121	66.5%
輸入農産物に残留する農薬	106	58.2%
遺伝子組換え食品	66	36.3%
国内産農産物に残留する農薬	49	26.9%
食肉、養殖魚介類に残留する抗生物質	30	16.5%
食品に付着する食中毒菌などの病原菌	28	15.4%
食品中の放射性物質	28	15.4%
食品中の汚染物質(カドミウム、メチル水銀など)	25	13.7%
食品に含まれているアレルギー物質(小麦、卵など)	20	11.0%
その他	13	7.1%
何となく	10	5.5%

食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか



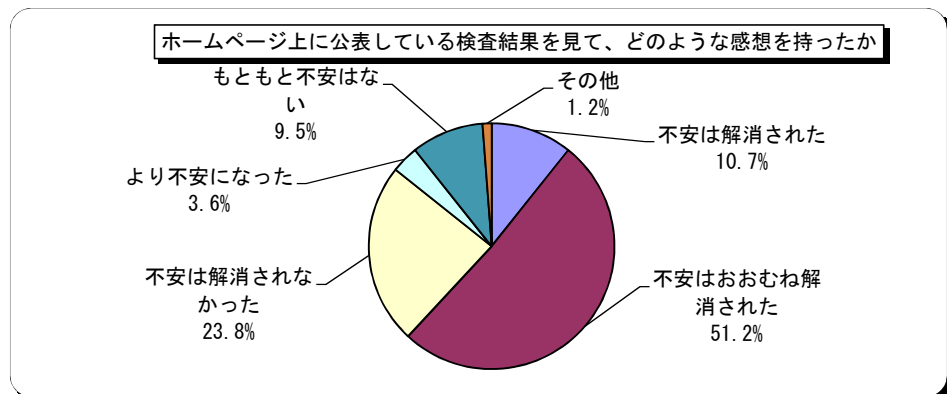
問4 滋賀県では、平成26年度から県政モニターアンケート結果を参考に、「不安を感じている」と回答された割合の高い食品を選んで検査を実施（過去5年間で2,931検体）し、その結果をホームページ上に公表しています。このことを知っていますか。（回答チェックは1つだけ。n=360）

項目	人数（人）	割合
知っている	84	23.3%
知らなかった（このアンケートで初めて知った）	276	76.7%
合計	360	100.0%



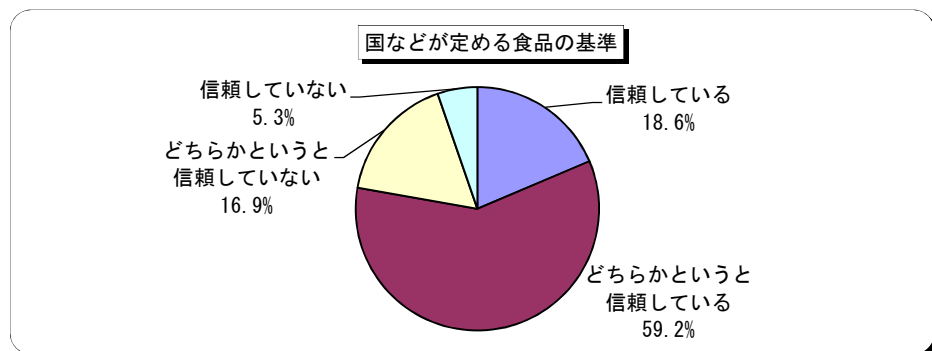
【問4で「1. 知っている」と回答された方にお尋ねします。】
 問5 ホームページ上に公表している食品の検査結果を御覧になって、どのような感想を持ちましたか。（回答チェックは1つだけ。n=84）

項目	人数（人）	割合
不安は解消された	9	10.7%
不安はおおむね解消された	43	51.2%
不安は解消されなかった	20	23.8%
より不安になった	3	3.6%
もともと不安はない	8	9.5%
その他	1	1.2%
合計	84	100.0%



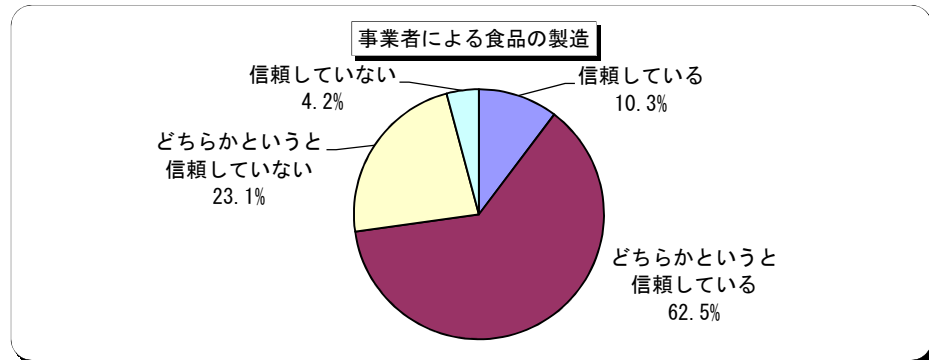
問6 食品に携わる関係者等に対する信頼感についてお尋ねします。（回答チェックは各1つ。n=360）
 (1) 国などが定める食品の基準（食品添加物の使用基準など）について

項目	人数（人）	割合
信頼している	67	18.6%
どちらかという信頼している	213	59.2%
どちらかという信頼していない	61	16.9%
信頼していない	19	5.3%
合計	360	100.0%



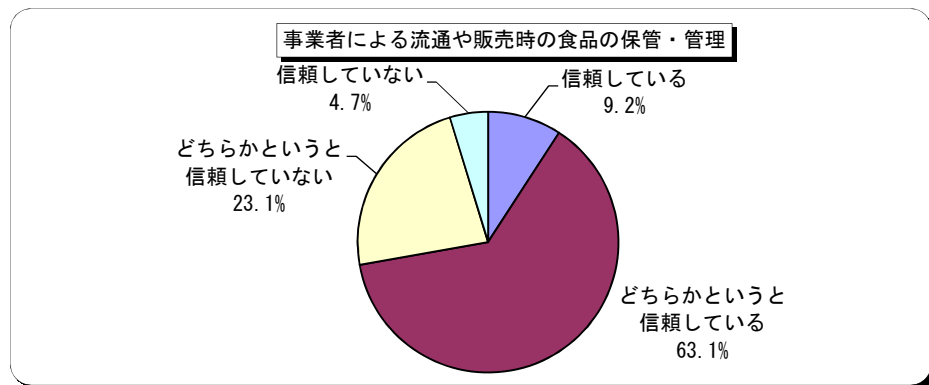
(2) 事業者による食品の製造などが適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	37	10.3%
どちらかという信頼している	225	62.5%
どちらかという信頼していない	83	23.1%
信頼していない	15	4.2%
合計	360	100.0%



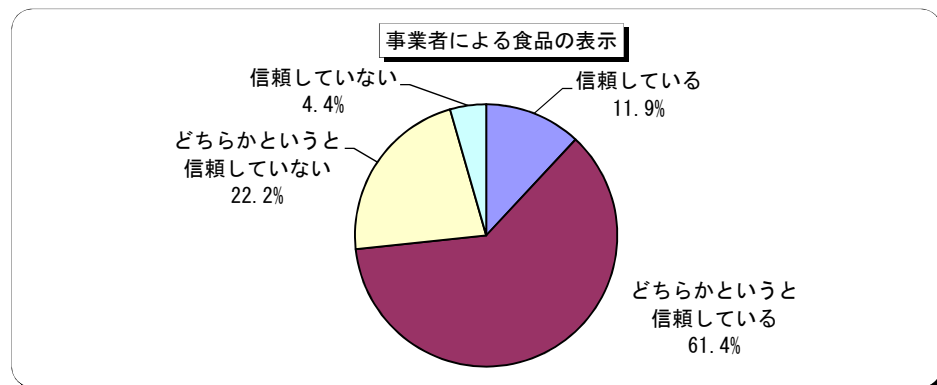
(3) 事業者による流通や販売時の食品の保管・管理が適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	33	9.2%
どちらかという信頼している	227	63.1%
どちらかという信頼していない	83	23.1%
信頼していない	17	4.7%
合計	360	100.0%



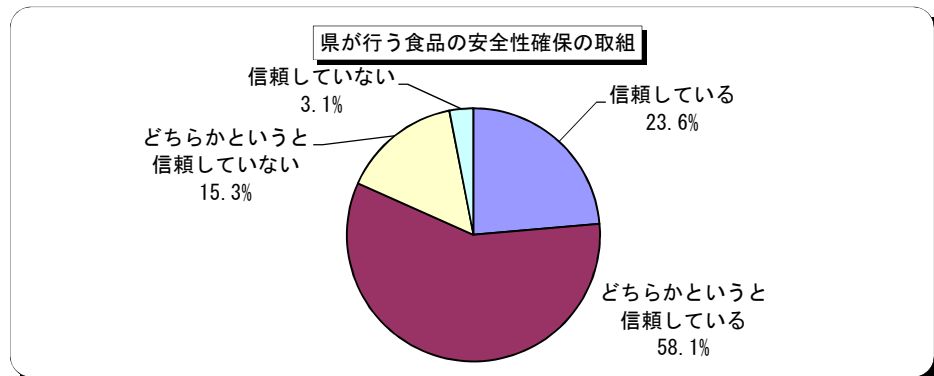
(4) 事業者による食品の表示が適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	43	11.9%
どちらかという信頼している	221	61.4%
どちらかという信頼していない	80	22.2%
信頼していない	16	4.4%
合計	360	100.0%



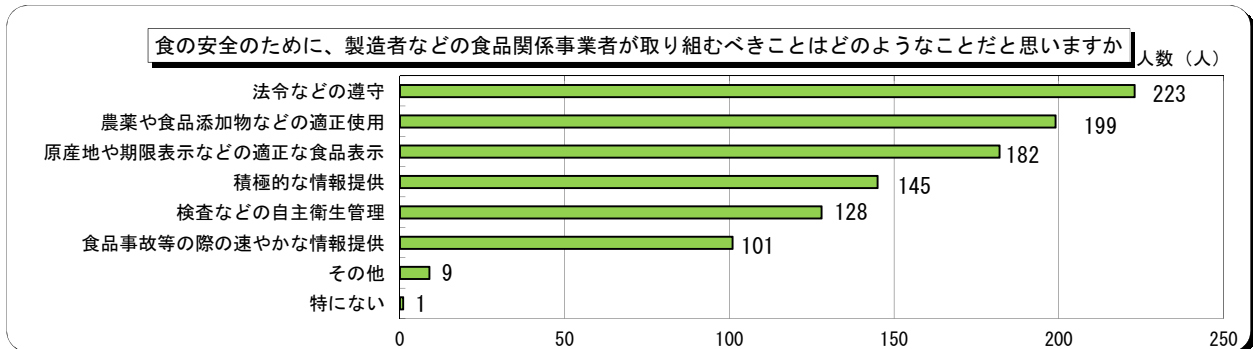
(5) 県が行う食品の安全性確保の取組（飲食店などの立入検査や食品の検査等）について

項目	人数（人）	割合
信頼している	85	23.6%
どちらかという信頼している	209	58.1%
どちらかという信頼していない	55	15.3%
信頼していない	11	3.1%
合計	360	100.0%



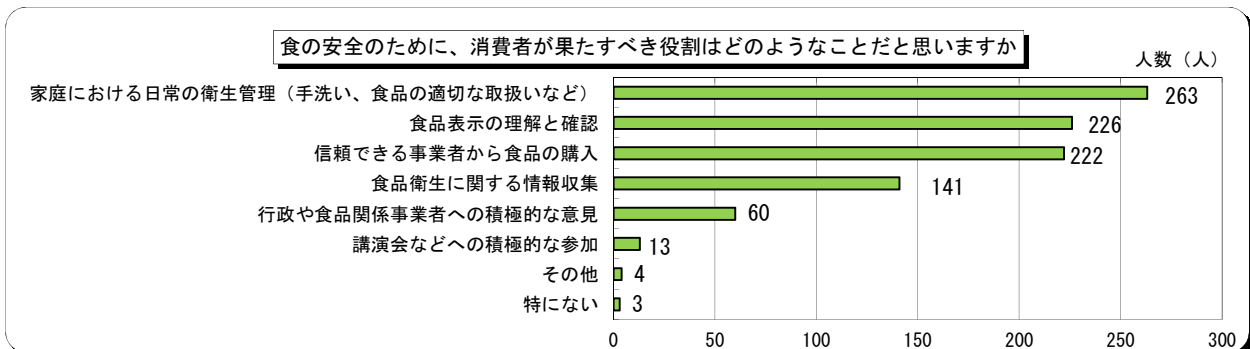
問7 食の安全のために、製造者などの食品関係事業者が取り組むべきことは、どのようなことだと思いますか。
（回答チェックは3つまで。n=360）

項目	人数（人）	割合
法令などの遵守	223	61.9%
農薬や食品添加物などの適正使用	199	55.3%
原産地や期限表示などの適正な食品表示	182	50.6%
積極的な情報提供	145	40.3%
検査などの自主衛生管理	128	35.6%
食品事故等の際の速やかな情報提供	101	28.1%
その他	9	2.5%
特にない	1	0.3%



問8 食の安全のために、消費者が果たすべき役割はどのようなことだと思いますか。（回答チェックは3つまで。n=360）

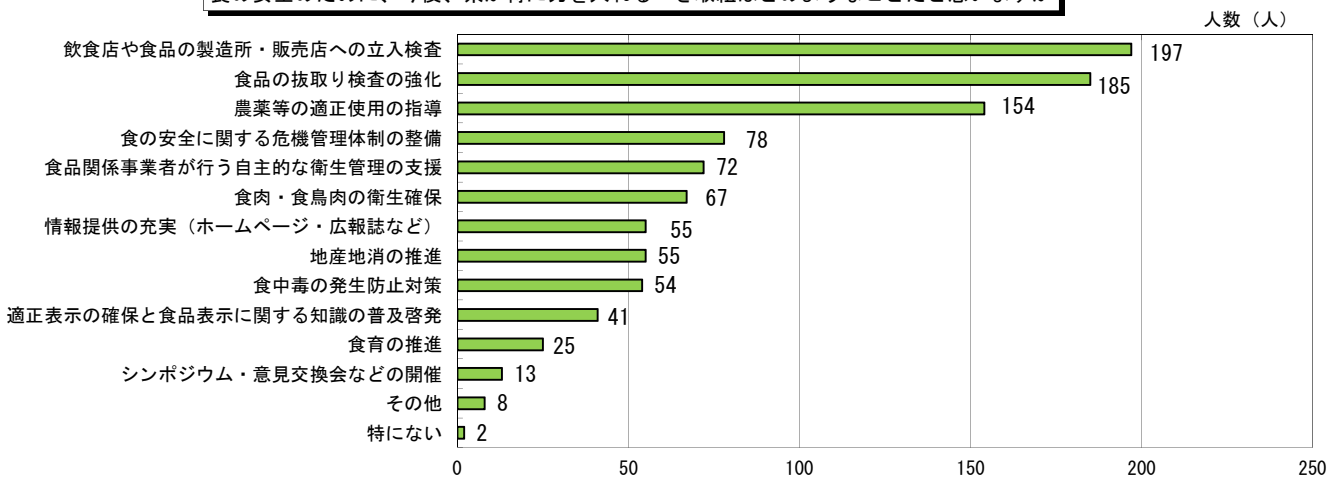
項目	人数（人）	割合
家庭における日常の衛生管理（手洗い、食品の適切な取扱いなど）	263	73.1%
食品表示の理解と確認	226	62.8%
信頼できる事業者から食品の購入	222	61.7%
食品衛生に関する情報収集	141	39.2%
行政や食品関係事業者への積極的な意見	60	16.7%
講演会などへの積極的な参加	13	3.6%
その他	4	1.1%
特にない	3	0.8%



問9 食の安全のために、今後、県が特に力を入れるべき取組はどのようなことだと思いますか。（回答チェックは3つまで。n=360）

項目	人数（人）	割合
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査	197	54.7%
食品の抜き取り検査の強化	185	51.4%
農薬等の適正使用の指導	154	42.8%
食の安全に関する危機管理体制の整備	78	21.7%
食品関係事業者が行う自主的な衛生管理の支援	72	20.0%
食肉・食鳥肉の衛生確保	67	18.6%
情報提供の充実（ホームページ・広報誌など）	55	15.3%
地産地消の推進	55	15.3%
食中毒の発生防止対策	54	15.0%
適正表示の確保と食品表示に関する知識の普及啓発	41	11.4%
食育の推進	25	6.9%
シンポジウム・意見交換会などの開催	13	3.6%
その他	8	2.2%
特になし	2	0.6%

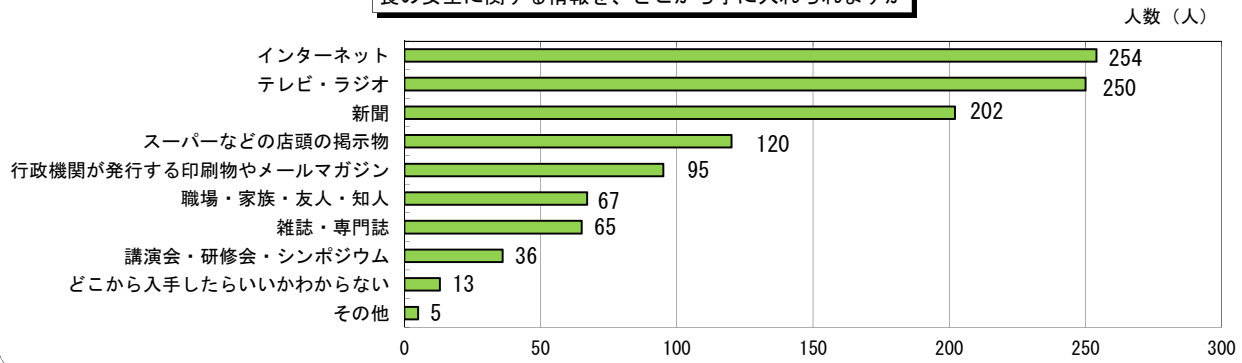
食の安全のために、今後、県が特に力を入れるべき取組はどのようなことだと思いますか



問10 食の安全に関する情報を、どこから手に入られますか。（回答チェックはいくつでも。n=360）

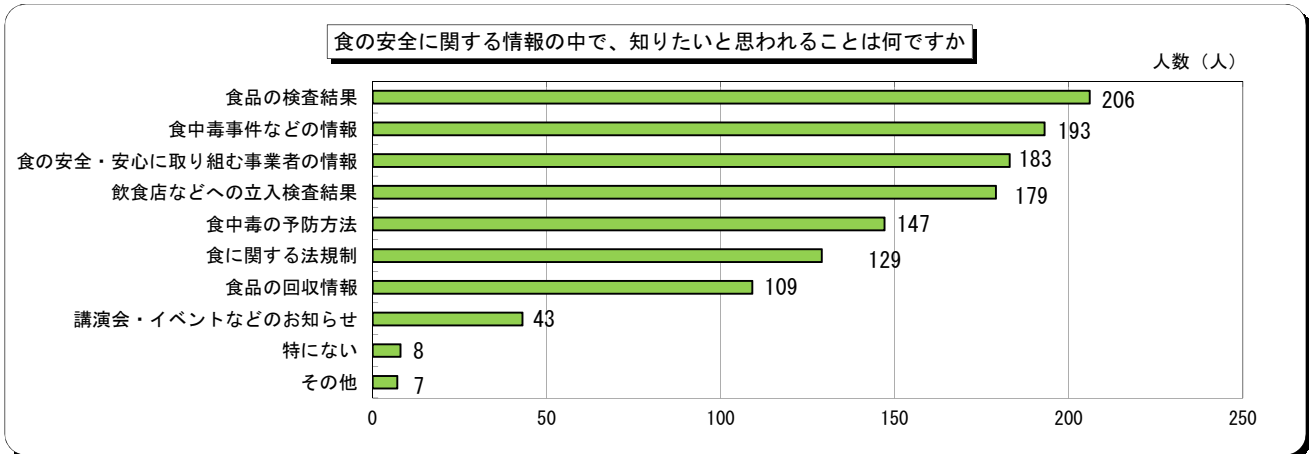
項目	人数（人）	割合
インターネット	254	70.6%
テレビ・ラジオ	250	69.4%
新聞	202	56.1%
スーパーなどの店頭の掲示物	120	33.3%
行政機関が発行する印刷物やメールマガジン	95	26.4%
職場・家族・友人・知人	67	18.6%
雑誌・専門誌	65	18.1%
講演会・研修会・シンポジウム	36	10.0%
どこから入手したらいいかわからない	13	3.6%
その他	5	1.4%

食の安全に関する情報を、どこから手に入られますか



問 1 1 食の安全に関する情報の中で、知りたいと思われることは何ですか。（回答チェックはいくつでも。n=360）

項目	人数（人）	割合
食品の検査結果	206	57.2%
食中毒事件などの情報	193	53.6%
食の安全・安心に取り組む事業者の情報	183	50.8%
飲食店などへの立入検査結果	179	49.7%
食中毒の予防方法	147	40.8%
食に関する法規制	129	35.8%
食品の回収情報	109	30.3%
講演会・イベントなどのお知らせ	43	11.9%
特にない	8	2.2%
その他	7	1.9%



あなたが、食の安全について、日頃感じていることを自由に記述してください。

【主な意見】

- ・現在の基準が絶対ではない以上、常に情報収集する必要がある。特に、食品添加物については単品で使用されることは稀であるにも拘らず、添加物同士の組み合わせについての使用基準がないと聞く。必然、食の安全を確保しようとすれば、食品添加物の少ないものを選択することになる。いくら食品添加物が国に認められていて安全だと言われても信用できない。添加物について、検査されてもそもそも基準が信用できないのだから、安全だとは思えない。
- ・日本の食の衛生管理についてはとても徹底していて、製造も販売もきちんとされていると思うので、その点では安心して。けれど、食品添加物などは多くのものに添加されているのでそれについて安心して食べることはできないと思っている。
- ・おおよその部分は信頼できていると思うが、時々発覚する偽装問題などの話題をきっかけに、不安を感じてしまう。いくら規制を厳しくしても、悪意ある人間の問題で食の不安は起こってしまうように感じている。更に、社会的に名の通っている大きな会社だから安心できるというものでもないとも思っており、食の安全確保の問題は本当に難しいと感じている。
- ・安心して食事ができることは大事ですが、テレビや新聞、雑誌等で食の安全に関する情報が増えているので、結局何を調べればよいか悩むことが多いです。怖がらせるような情報だけでなく、食の安全が確保できる賢い食品選択をするための情報の提供をしてもらいたい。
- ・多くの食材を流通に頼ざるを得ない現状では、国や県・市などの行政や事業者からの情報を信じないと食べる物が限定されてしまいます。それだけ、行政や事業者の責任が重いと自覚いただきたい。
- ・疑い出したり、不安になり出したらきりが無い。自分自身がしっかりとした考えを持とうと思うし、その努力をしていきたいと思う。
- ・豊かな日本において食の安全について考えさせる機会はほとんどなかった。日ごろ、食の安全のために行っていることといえば、できるだけ日本産の食品を買うことぐらいで、自ら情報集等を行ったことはほとんどなかった。
- ・食品の安全については、消費者にとって重要なことだ。この認識を深めて、情報の収集など積極的に対応していきたい。
- ・国や県など行政における食の安全に対する規制や取り組みについては概ね信頼して生活しています。子どもの給食に関わる仕事をしているので、日々取り扱う食品については厳しく見ています。信頼の上にあるからこそ食を提供できているので、これまで通りしっかりとした揺るぎない管理をお願いしたいです。
- ・日本は食糧自給率が高いほうでなく、輸入をゼロにはできない。その輸入品も外国とは品質基準も違う。外国の基準との差がとても不安。
- ・食の安全に関しては、正直疑いだしたらきりが無いと思っている。数年前、外食産業における産地偽装問題が発覚し、スーパーにおいても外国産を国産と偽り表示も問題になった。しかし、消費者としては、いつまでも疑いの目で見るともいえず、信用しているとしか言えない状況にあると思う。それらの産業に対してチェック機能を持っているのは唯一、行政しかない。ましてこれだけネットが普及した今、知り得た虚偽や問題事項は、素早く広く情報開示するのが、これから最も重要なことになってくると思う。
- ・県の情報提供や指導も重要なファクターですが、最も重要なのは食を取り扱う事業者のモラルであると感じます。事業者のモラルを高めるために消費者自身が意識を高め、その監視役にならなければならないと思います。精度の高い監視役になるため、行政は食に関するもっと多くの情報を消費者に提供する必要がありますと感じます。
- ・自分でおかずを取る方法、トングの取り扱いなどは気になる。使用はするが、どれぐらいで点検、交換しているのか表示してほしいと思う。途中で洗っているのか、交換されているのか、その都度気になっている。
- ・飲食店等で働く従業員の意識を高め、安全と衛生管理を自ら行うことが大切。体調不良なのに働いたり、食品の製造時にマニュアルに従わなかったりしないよう、日ごろの点検を心がけるべき。
- ・あまり余分な物を買わない様にして、廃棄ロスや古くなって食中毒等が発生しない様に気をつけています。
- ・国産は安全安心といった感覚があるが、本当にそうなのか？価格が外国産より高いからといって本当に安全なのか？という疑問はあります。中国産は信用出来ないという噂もありますが、本当に信用できないものなら日本で販売できないと感じています。
- ・食の安全・安心は生命に直結する課題だけに不安が完全に払拭出来るものではない。しかし食の安全・安心のための事業者の努力や消費者の意識・行動が従前に比べて格段に高まっていると認識している。これは行政による弛まぬ諸施策の実施・推進の努力の結果であると理解している。一方、外食チェーン店など一部の店でアルバイト店員が現場での不衛生な行為をネットに投稿、拡散させている事象が発生している。食の安全と安心に努力する行政や食に係るすべての事業者や消費者への冒涇であり極めて残念なことである。
- ・輸入食品の安全性及び国内での食品製造過程における衛生管理等に疑問・不信感を感じている。過去、食品に異物混入があり、業者に通報したことが何回かあるが、業者の対応は不誠実で信用できない。
- ・加熱食品でも食中毒がおこるのにびっくりしています。様々な情報があると勉強になりますし、更に気を付けられるので速やかな情報公開が何よりだと思います。
- ・品質が確保された良い食品でも、安かったからと大量に購入し、保管方法・期間超過など管理不十分でダメにすることがある。必要なものを必要なだけ購入するようにしていきたい。
- ・食品の安全を考えると、食品ロス削減を考えないわけにはいかない。どちらも事業者と消費者の意識が重要である。飽食の幸せな時代に持続可能な社会を未来に続けるために、みんなが謙虚な食生活を考える時です。